

きゅうくだり け じゅうたくしゅおく

旧 下里家 住宅主屋

種 別	国登録有形文化財 建造物
登録年月日	令和元年9月10日
所 在 地	大杉町

大杉町の山村集落に建てられた、農家住宅主屋である。

もと板葺きで、明治36年（1903）に瓦に葺き替えている。正面両袖部は近年増築されているものの、均整の取れた縦羽目板張りの美しい外観を呈している。南正面の切妻造りで、棧瓦葺き、妻入りの二階建てである。妻面中央に敷棟の先端を意図的に表出するという意匠的な特徴をみせる。

内部は、南から土間とヒロマを並べ、奥に田字形に室を配している。ヒロマは吹き抜けに木太い梁組みをみせ、西北隅のジョウザ（仏間）は、仏壇前に幅半間の上段を備え、良質の釘隠を使用するなど、他の部屋に比べ格式の高い造りとなっている。

二階は、ほとんどが板張りのアマ（物置）としている。

天井を張らずに太い梁を見せるヒロマや、その奥の四室の座敷など、加賀地方の江戸時代末期の、上層農家の形式をよく伝える貴重な民家である

（1）敷棟（しきむね）：二階と屋根の間にある建物の中心を通す横架材。



主屋